

# 平成13年度 文学部 授業計画表[syllabus]

## 地2必

科目名 <b>地理実習Ⅱ</b> (英文名) Field Studies II	2単位 (集中)	(ふりがな) の ぐち やす お <b>野 口 泰 生</b>
<p>授業のねらいと概要: 2年次に履修する必修の野外実習科目で、1泊2日で行われる。1年次と異なり、教員ごとに別々のテーマで、関東甲信越地方の適当な場所を選んで行われる。実習にあたっては、1年次よりも専門性が求められる。できる限り多くの経験を踏ませる目的で、教員がチームを組んで実施することもある。</p> <p>これまでの教員別実習先は1年オリエンテーションの際に配布した「地理学教室のしおり」を参照のこと。</p>		
<p>教科書と参考図書:</p>		
<p>評価法: 2日間の実習をもとにしたレポート提出で行う。レポートの未提出者は、次年度自費による再履修となる。</p>		

## 【授業計画】

回数	授業内容とそれに必要な準備
	最近では、霧ヶ峰と三浦半島のいずれかで長谷川先生の巡査と合同で実施することが多い。その理由は、自然地理に関心のある学生にできるだけ多面的な自然観察の機会を与えることにある。
	[霧ヶ峰巡査] 長野県霧ヶ峰高原は、標高1500~2000mの中信高原の一部で亜高山帯に位置するが、本来森林であるべきところに草地が広く分布している。また不思議なことに、この地域は一年を通して南風が卓越する。冬の北風の季節でも南風なのだ。この冬の南風は高原斜面の積雪分布を決め、積雪分布はさらに、斜面の土壤凍結、土壤温度、土壤水分、春の日照時間に影響する。霧ヶ峰高原の植生も、当然これらの影響を受けて特異な分布を見せている。 また、霧ヶ峰高原は古くから人為的影響を受けてきた山地である。無土器文化遺跡の存在、縄文時代の黒曜石採取、鎌倉時代の御射山(ミサヤマ)まつりや狩り場としての利用、近世以降の放牧地・採草地、今日のハイキング客による踏みつけ、スキーフィールド開発、牧野組合による牧草栽培、秋の警察犬訓練など、様々な人間活動によって、外来植物が侵入してきている。 巡査では、様々な要因によって霧ヶ峰高原の植生がどのような発達をしてきたかを「年間を通した南風」をキーワードとして観察する。また同時に、凍結融解作用によって地表に描かれた不思議な地形も観察する。巡査は、9月末に実施されるため、他の季節については知り得ない。そこで、霧ヶ峰自然保護センターを訪ねたり、夜の研修でスライドを用いて、霧ヶ峰の四季の変化を追う。
	[三浦巡査] 三浦半島先端の三崎港周辺地域で気温観測を行い、気温分布に与える海の影響、都市や道路(交通)の影響、土地利用や起伏の影響について考察する。また、多くの観測機器を用いた観測方法や、器差補正・時刻補正のしかた、分布図の描き方も学ぶ。